

外国人客 年間10万人へ

飯塚商議所

外国人観光客を飯塚に呼び込むと、飯塚商工会議所は、インバウンド（訪日外国人観光客）誘致推進のため本年度から、バーチャルリアリティ（VR、仮想現実）を組み入れた観光地訪問、スマートフォンアプリを使った決済サービス、交通インフラの整備などの取り組みを始めた。前年度の受け入れ人数は約1万人だが、6カ年計画で目標は年間約10万人。商議所の担当者は「行政、企業、商店街、観光協会などに声を掛け、多くの外国人が楽しめる企画を仕掛ける」と話している。

VR体験やスマホ決済…

「キモノ」「サムライ」。

5月下旬、同市の芝居小屋「嘉穂劇場」で、九州工業大情報工学部（同市）の留学生が、かつらや着物など時代劇の衣装を身に付ける「コスプレ」を楽しんだ。



嘉穂劇場でコスプレを楽しむ留学生

31事業推進 6カ年計画で10倍に

商議所が「留学生に飯塚を知ってもらい、ツイッターやインスタグラムで情報発信してもらおう」と初めて企画した「飯まち魅力いっぱいツアー」。中国、韓国、インドネシアなど9カ国・地域の25人が参加し、巽祖八幡宮や長崎街道内野宿を散策し、昼食は和食に舌鼓を打った。フランスから留学しているメリアン・エルワンさん(22)は「日本の文化を知ることができてうれしい。SNSで友だちに伝えるよ」と話した。

これまで商議所は国内の観

光客誘致に力を入れていたが、九州経済連合会会長も務める麻生泰会頭が「飯塚は福岡市と比べてインバウンド事業が弱い。積極的に取り組もう」と提案。昨年度から計画を進め、本年度から2023年度まで、アクションプランに取り組む。

プランは情報発信、言語対応、環境整備など8項目に分かれ、長崎街道でVRを利用し、江戸時代の旅を演出する「かち歩き」▽飯塚観光協会のウェブサイトに外国人向け特設サイトを構築▽福岡空港国際線ターミナルから飯塚市への直行バスの導入検討—など31事業を進めていく。

中国で広く普及するスマホアプリを使った決済サービス「アリペイ」と「ウィーチャットペイ」を商店街や店舗に導入、中国、韓国、台湾の旅行業者を飯塚へ招き、旅行プランを作成してもらうなどアジアをターゲットにした事業にも力を入れる。

商議所の岩井堂政裕副会頭は「インバウンド誘致に必要な歴史、文化、食が飯塚にはある。どんどんPRしていきたい」と話している。

(中川次郎)